

## 54. 当院の緩和ケアチームにおける歯科介入

### 研究の概要

WHOによる緩和ケアの定義(2002年)では、「緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、適格なアセスメントと対処（治療・処置）を行うことによって苦しみを予防し、和らげることでクオリティ・オブ・ライフを改善するアプローチである。」とされています。最後まで口から食べられるということは、患者さんのQOLを支え、またご家族の安心感、満足感にも繋がります。しかし、緩和ケア患者さんは、全身状態への対応が優先されるため、口腔内に目を向けられる機会は十分とはいえません。こうした状況下において、患者さまの口腔内環境は劣悪化し、口内炎による疼痛、真菌やウイルスによる感染症、口腔感染症などの影響により、義歯の使用が困難になり、摂食不良による低栄養状態、味覚障害、構音障害、審美障害などを引き起こし、患者さまのQOLを大きく損ねています。

本研究では、当院における緩和ケア介入患者さんの口腔内の実態を把握し、「食べる」「話す」等、口腔機能を最後まで維持するためには何をすべきかを検討するため、臨床的観察並びに歯科介入を行っています。

### 研究の目的と方法

当院における緩和ケア患者さんの口腔内の実態を把握し、より質の高い緩和ケアを提供していくためには何をすべきかを検討することを目的としています。当院では、同意を得た緩和ケア介入患者さまの病室へ往診し評価を行っています。

### 本研究の参加について

患者さま個人が特定できる内容は一切公表せず、集計した統計データを用いて評価を行います。また、患者さんに侵襲を与える様な医療行為は行わず、患者さまの全身状態を把握しながら負担をかけない範囲で評価を行います。

### 調査する内容

口腔内に関して気になっていることや歯科介入希望の有無について等の問診、OHATによる口腔内所見、カルチャースワブを用いた口腔カンジダ症検査を行います。また、口腔機能の低下を調べる検査（細菌数の測定、口腔乾燥度検査、舌圧測定等）を行います。

### 調査期間

研究期間：2017年4月1日～2018年12月31日

実施期間：倫理委員会承認後～2018年12月31日

## 研究成果の発表

調査した患者さんのデータは、集団として分析し、学会や論文で発表します。また、個々の患者さまのデータを発表するときも、個人が特定されることはありません。

## 研究代表者

歯科口腔外科 中尾美文

## 当院における研究責任者

歯科口腔外科 中島健

## 問い合わせ先

歯科口腔外科 中尾美文

TEL: 096-353-6501